

令和 2年12月 7日

瀬戸市議会議長 富田 宗一 様

厚生文教委員長 朝井 賢次

厚生文教委員会 行政視察報告書

本委員会は、下記のとおり行政視察を実施したので報告します。

記

期 日	令和 2年11月16日 (月)
視察先	瀬戸市立にじの丘学園
視察目的	本年4月に開校した、小中一貫校「にじの丘学園」の開校後の児童・生徒の授業状況や教育環境、また学校環境など現地を厚生文教委員9名で視察を実施、先生方と開校後の状況や児童・生徒の様子など意見交換を行うもの。
視察先の現状・課題等	
<ul style="list-style-type: none">・ 当日午前10時より委員9名全員と随行者として鈴木議会事務局長、山下委員会担当事務局員で学校を訪問、渡辺校長先生を始め教頭先生など5名の先生方のご案内で約1時間に渡り校内学年及び学年ごとの授業風景を視察した。： 校舎内の教室環境に合わせた取り組みとして、広い廊下を多目的に有効活用として、例えばある学年でテストを実施の際、広い廊下も含めた個人スペースの確保に努めてみえる。： 休憩時間に広い階段スペースを使い、腰を下ろし読書スペースの確保している。： クラスや学年を超えた交流スペースをグループ活動の意見交換の場として活用している。： 施設は小規模の大学より設備的には良いのではと感じた。特別室や広い廊下、階段は工夫次第でいろんな活用の仕方が考えられることも魅力である。： この環境下で、どのような教育を施し学習効果を上げ、高校進学という結果を出していくということが重要であると考え、注視すべきことと考える。	

視察先での主な質疑・応答内容

校内視察の後、会議室に於いて先生方と委員会メンバーとの質疑、意見交換を行いその内容を下記に示す。

- ：小学校高学年（５．６年生）と中学生（１．２年生）の先生による乗り入れ授業の積極的な実施は評価に値する。
- ：小中の授業時間の違いによる授業の始業、終業時の音声チャイムの禁止により、担当授業の先生による言葉の合図は良い取り組みと感じた。
- ：学校の視察に伴い来訪者も秋より多くなり、児童・生徒の視察中でも授業への集中力の高さを感じた。
- ：職員室を小中一体とすることで教職員の情報共有を円滑に図っている。
- ：ＩＴ教育を推進するためタブレットが配置され、今後の活用に期待が高まる。
- ：路線バスによる通学や徒歩通学に対する、安心・安全につながる地域見守りボランティアの皆さんの協力はありがたいと感じた。
- ：小学校５校と５連区のモニュメント設置と地域文化の発信などと取り組みを評価し、今後を期待。

今後の課題と目標として

- ：中１ギャップの発生の現状把握と今後とも注視が必要
- ：今後も教科ごとの乗り入れ授業の積極的な導入と活用
- ：１年生から９年生までの小中一貫校の学年連携の推進
- ：コミュニティスクールを核とした地域間情報の発信と共有、広報、コーディネーターによる教育環境や学校環境の推進と提言
- ：現在整備中の小中学校運動場の利活用とクラブ活動の充実
- ：生徒・児童の病気やケガなどの送迎用駐車場の確保、整備
- ：今後においても、季節に応じ通学路の整備と草刈の実施
- ：広い学内のセキュリティの確保
- ：今後の教育目標である、アクティブラーニングの積極的な実践と推進による受動的な姿勢から能動的な取り組みと指導など
- ：近い将来変更されていくことが確実と考えられる大学センター入試に、子供たちが対応していくための根幹となるのがアクティブラーニングである。この方針を確立、推進していくために、先生方をはじめ一体となって取り組んでいく必要があると感じた。
- ：教育方針を始めとしたにじの丘学園の学校体制をより太く、豊かなものとしていくため、義務教育学校への移行、昇華が望まれる。

考察
(各委員所感抜粋)

大変恵まれた教育環境のもと、本市初の小中一貫校として本市の東に位置する自然環境豊かな地に他市に誇れる学校が開校できたことは、今後の人づくりの大きな礎に成っていくと感じた。9年間を通した一貫教育が今後の瀬戸市の試金石でも有り、将来子どもたちが成人し胸を張って誇れる母校と成ることを願うものである。

乗り入れ授業の積極的な活用の様子がうかがえ、小中教員の相互理解やスキルアップに対しての好影響が出ていると感じた。

同時に、市内の他の6中学校区で、教育の平等性の上からも同等のパフォーマンスを出していくには何をしていくべきかが課題と考える。

保護者からの問い合わせが多いバス利用に関し、コロナ禍によりバタついた感があったが、状況に応じ適切に対応しているが遅延の影響で始業時間に間に合わない事があった。各連区の見守りボランティアを始めとした関係者の皆さまのおかげにより通学時の安全が守られている印象を受けた。

教職員の勤務状況については想像通り多忙であると感じるが過労状態ではないと報告を受け安堵している。

市内では初の小中一貫校、全国では7校統廃合である。それによる影響・課題にどのように取組み解決しているかが、先進事例となる。

バス通学に関しては、初年度と2年目で利用状況に変化も生じると考えている。その影響と、長期的な視野も含めて注視していく必要がある。